

私たちのメディアを創るラボ

連携先：株式会社山陽新聞社



00背景

連携先である株式会社山陽新聞社から課題提供を受け、20名の経営学科3年次生が教員2名と連携先から派遣された1名の非常勤講師とともに、1年間取り組む。

01課題 山陽新聞社の持つ資産をベースに2030年におけるメディアの新しいサービスの提案。

02内容

2-1 目標→2030年における社会課題に新聞社がどうかかわるかを考察し、そのうえで、「私たちのメディア」としての山陽新聞の役割とビジネスモデルを構想、提案する。

2-2 対象について理解する→山陽新聞社の強みを調べる、さん太しんぶん館の見学、連携先から派遣された講師からレクチャーを受ける

2-3 2030年の未来を把握する→

▶2030年の岡山の社会課題を把握する。

「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」「おかやま創生総合戦略」を読み10年後の岡山の地域課題を理解する。

①課題解消のために山陽新聞社ができることを各自で考察

②ポスター発表とフィードバックを行う

▶2030年に普及しているテクノロジーを知るため『デジタル×地方がけん引する2030年日本の針路』を輪読、今後普及するテクノロジーで地域課題がどのように解消されるのかを学ぶ。

2-4 ビジネスモデルの立案→チームごとに教員および連携先講師のアドバイスやサポートを受けながらビジネスモデル立案を進める。



ポスターの一例



03結果_連携先へビジネスモデルを提案

それぞれのチームが2030年を想像しながら、AIを用いたポップアップ方式の情報サービスシステムや、山陽新聞社の蓄積された膨大なデータをデータベースとして活用させるVRでの思い出の追体験など、新しいビジネスモデルの提案を創り上げ、山陽新聞社へ報告した。